Chiba University Hospital

Department of Respirology

千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科研修プログラム

1969年　千葉大学呼吸器内科学教室として発足.
　　渡辺 昌平 教授就任.
1986年　栗山 喬之 教授就任.
2008年　巽 浩一郎 教授就任.
2021年　鈴木 拓児 教授就任.

千葉大学 呼吸器内科

当科は1969年(昭和44年)1月に千葉大学医学部において全国初の呼吸器内科単科の教室として設立しました．呼吸器内科単科の教室として長い歴史を持ち，多くの呼吸器内科医を輩出してきました．同門の医師は300人に及び，千葉県を中心とした多くの関連病院があり，全国の呼吸器内科の教室の中でも大きな教室です．

同門の一員となった先生方はそれぞれ関連病院での研修や大学院での研究を通して多くの経験を積み，診療・研究・教育いずれにも優れた呼吸器内科医として多方面で活躍しています．その結果として長い歴史の中で多くの診療・研究業績が生まれています．

毎年多数の新規入局者を迎えており，現在も医局としても益々大きくなっています．当科には他大学出身者も多く，女性医師も多数在籍しています．仕事と家庭が両立できる職場環境づくり，本人の希望に合わせた研修，進学，勤務，海外留学などを応援しています．

2021年度より鈴木拓児新教授のもと新たな体制がスタートしました．折しも新型コロナウイルス感染症の流行で呼吸器内科医の需要がさらに高まりましたが，皆で乗り切りました．千葉県を中心とした呼吸器診療の担い手として今後も優秀な呼吸器内科医の育成に努めていきます．

千葉大学大学院医学研究院
呼吸器内科学教授
鈴木 拓児

呼吸器診療の未来を見据えて

呼吸器内科は肺循環，悪性腫瘍，感染症，炎症，線維症，アレルギー性疾患，睡眠障害など多彩な疾患を対象にしています．

われわれ千葉大学呼吸器内科は50年以上の歴史のある教室で，大学を中心に多くの関連病院と連携して診療・研究・教育をおこない，同門の先輩医師から若い先生達へと広い繋がりを軸に活動しています．

やる気のある若い先生方が我々の一員となって，ともに呼吸器内科診療・研究に従事し，立派な医師として成長していくことを期待しております．

東北大学医学部，東北大学大学院医学系研究科卒業，医学博士
聖路加国際病院，東北大学病院，シンシナティ大学・シンシナティ小児病院医療センター assistant professor，
自治医科大学教授などを経て千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学教授
千葉大学医学部附属病院副院長
日本内科学会総合内科専門医・指導医，日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医・代議員・理事
日本呼吸器学会英文誌(Respiratory Investigation) Associate editor

呼吸器内科

呼吸器内科医はますます必要とされています

呼吸器内科医は内科医の中でも不足

千葉県をはじめ，全国で呼吸器内科医は不足しています．2020年の調査では全国の医師の中で呼吸器内科医は2.1％であり，患者数が多いにも関わらず循環器内科(4.0%)，消化器内科(4.8%)に比較すると少ない状況です．

2020年2月より世界的な流行を示している新型コロナウィルス感染症においても呼吸器内科医が果たす役割は大きく，ますます存在意義が高まっています．

呼吸器疾患はさらに増加

現在，肺炎，COPD，肺がんなど呼吸器疾患を有する患者は急増しています．日本の喫煙率は今だに高く，PM2.5などの大気汚染も様々な呼吸器疾患を引き起こす可能性があります．今後も呼吸器内科医が取り扱うべき疾患は多く存在すると予想されます．

関連・関連外病院からの派遣要請多数あり

千葉県内，都内の病院からの医師派遣要請が多数あります．大学病院としては，良き呼吸器内科医を育成し，呼吸器内科医としての技術向上，経験集積，専門医取得，博士号取得を応援し，関東地域の呼吸器医療貢献のニーズに答える責務を担っています．

呼吸器内科を志す方を応援します

医局長　重田 文子 (2001年卒)

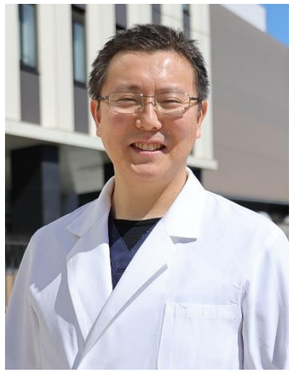
呼吸器内科の診療は，気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎などのcommon disease，肺癌・悪性胸膜中皮腫などの悪性腫瘍，間質性肺炎や肺循環障害などの指定難病と，カバーする領域が広いことが特徴です．当科には各専門家が揃っているので，症例を経験しながら広く深く学ぶことが出来るとともに，興味ある分野が必ず見つかると思います．

また，多様な人材が在籍しており，必ずご自身のロールモデルとなる先生が見つかるでしょう．先生方のキャリアアップを常に意識しながら，大きく安定した基盤をもって，全面的に応援します．

千葉大学呼吸器内科で一緒に成長して自分らしい働き方を探しませんか？

先端医療と働きやすい職場の両立を目指して

副病棟医長　内藤 亮 (2008年卒)

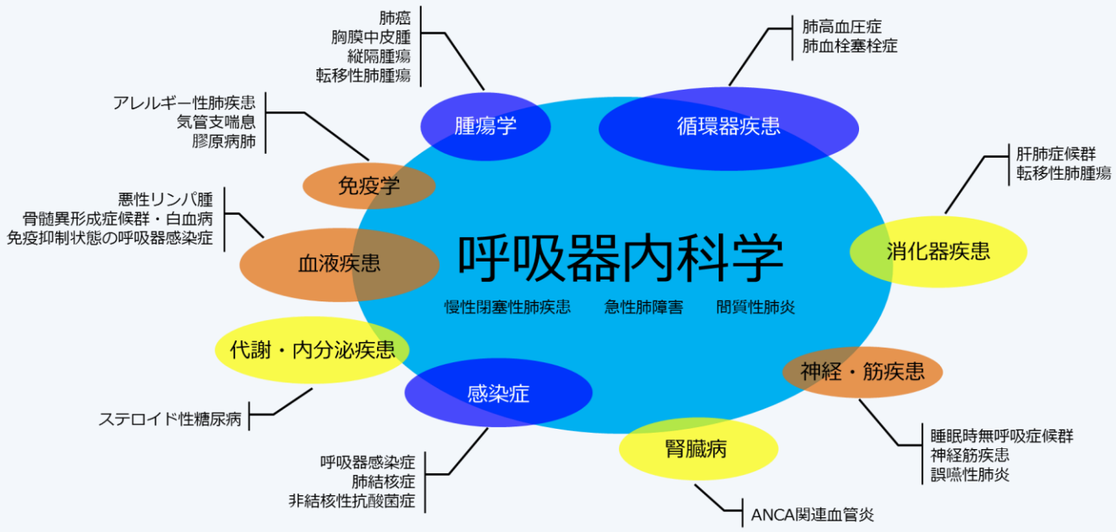


当科では，一般的な呼吸器疾患診療に加え，診断の困難なびまん性肺疾患や肺胞蛋白症等の希少疾患，そして肺高血圧症を中心とする肺循環障害にも精力的に取り組んでおり，各分野の経験豊富な医師の指導を受けることができます．また，高度な他科の診療が行われている中で併存している呼吸器疾患の診療にあたることも多く，救急科をはじめ各科とも密に連携をとっており，非常に幅の広い症例を経験することができます．治癒の難しい疾患も多いですが，患者さん・ご家族と対話しながら全人的ケアの視点も持ちつつ診療を行っていくことは呼吸器内科の魅力と感じています．

一方，働き方改革の本格的な施行に伴い，現場では効率化が求められています．私自身も臨床・研究そして育児の両立に日々奮闘していますが，専攻医の先生方の希望・多様性に配慮し，先端医療を担う中でもライフワークバランスを意識した職場環境づくりに取り組んでいます．

呼吸器疾患の多様性

呼吸器内科で扱う疾患は非常に多岐にわたります．もちろん呼吸器だけの疾患もありますが，下の図にあるように他の内科系分野とオーバーラップした領域の疾患も数多くあります．これらの疾患は他の内科系診療科と連携しながら診療を行うことで，幅広い疾患を経験することが可能です．

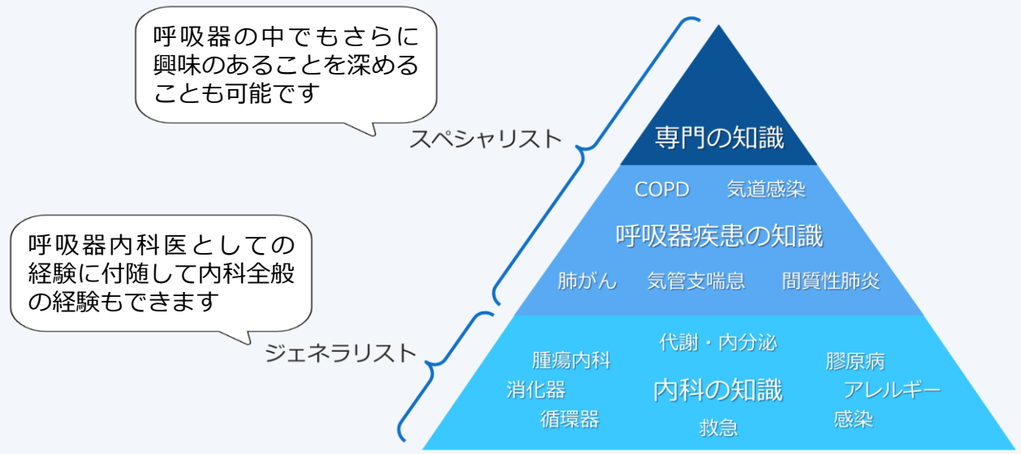


ジェネラリストとスペシャリスト

肺という臓器は呼吸を通じて外部と接触しているため，様々な病原体やアレルゲンなどに曝露されるとともに，他の臓器と血流やリンパ流を介して密接に関わっています．そのため，呼吸器疾患を診療するためには呼吸器領域だけではなく，幅広い内科の知識が必要となります．

さらに気道と呼吸を扱う診療科であるため，急変時や救急外来でも柔軟に対応可能であるとともに，緩和治療や看取りといった慢性期の管理も経験できます．

当科では呼吸器疾患を通じて，呼吸器スペシャリストであり，ジェネラリストである医師を育成するよう努めています．



呼吸器内科専門研修

当科では初期研修後の卒後3年目から関連病院での専門研修が始まります．初期研修医と異なり主治医として入院患者さんを受け持つだけではなく，外来(一般内科外来や呼吸器内科専門外来)，気管支鏡検査，救急外来などにも積極的に関わることになります．

日々の経験を通して，いろいろな事ができるようになる重要な時期ですので，皆さんが自立した呼吸器内科医として成長できるようなプログラムを設定しています．

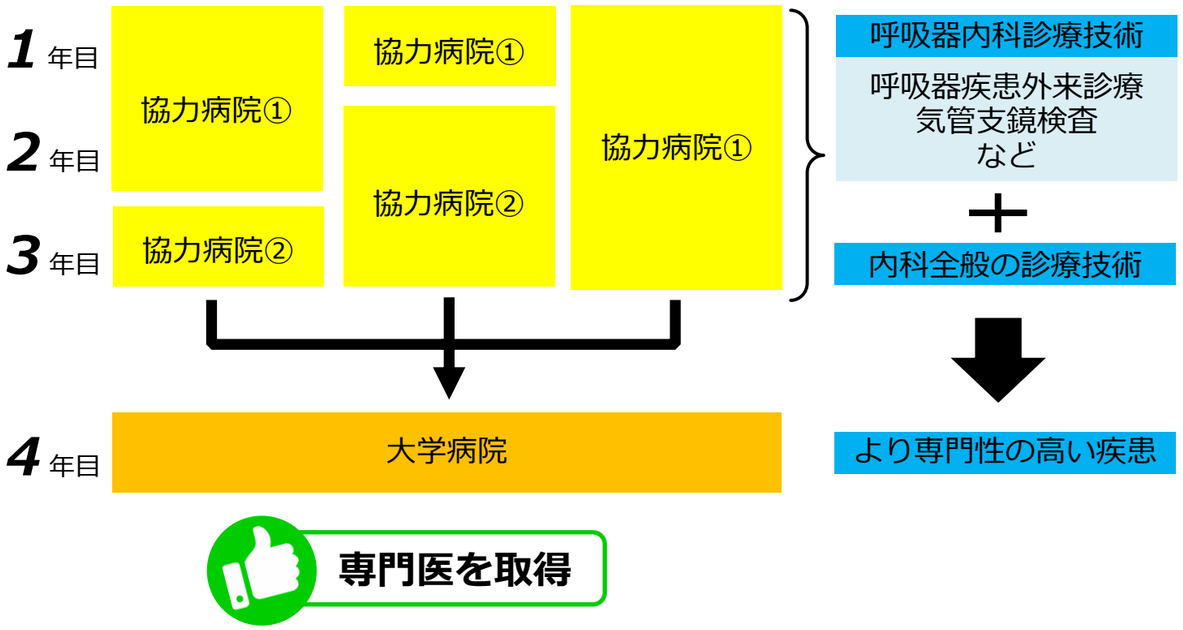
専門研修プログラム

研修期間：3-4年間

千葉大学病院の専門研修プログラム(内科領域)と連携しながら呼吸器内科としての研修を中心としながら内科専門医を取得できるプログラムとなっています．

1年目から3年目まで1～2施設の関連病院での研修で呼吸器内科医としての基礎を養い，その応用として大学病院でより専門性の高い疾患を経験することで呼吸器内科医としての専門性を高めていきます．関連病院での研修期間については基本は3年ですが，大学院への早期の入学など希望に応じて2年～4年の調整をすることも可能です．

千葉大学病院専門研修 (呼吸器内科研修) プラン



専門医を取得

研修後の進路

研究に興味がある

➡ **大学院**

臨床経験をもっと積みたい

➡ **関連病院**

➡ **国内留学**

専攻医研修の実際

呼吸器内科の専門研修は検査や外来の割合が少なく，比較的病棟業務に携わる時間が長く取ることができます．そのため，患者さんや疾患とじっくり向き合うことができます．

一週間の予定の一例

	月　曜	火　曜	水　曜	木　曜	金　曜
午前	予約外来	病棟業務	抄読会 新患外来	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務 カンファレンス 病棟業務	気管支鏡 病棟業務	病棟業務	気管支鏡 病棟業務	病棟業務 カンファレンス 病棟業務

後期研修での3年間を通して

君津中央病院専攻医　稲﨑　稔明 (2019年卒)

当医局の研修プログラムでは，初期研修終了後まず，市中病院に勤務し，呼吸器内科医としての基礎を勉強していきます．試行錯誤の毎日ですが，経験豊富な指導医や，頼れる先輩・同期の存在が支えとなり，充実した日々を送っています．負担が重くなりすぎないよう配慮して下さることや，日常診療から学術活動に至るまでの指導体制が充実していることが印象的でした．また，私は他大学出身ですが，入局時から温かく迎え入れてくれました．

千葉大学呼吸器内科の後期研修では，成長できる環境が整っています．皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています．

新規入局者の推移 (他大学出身者も多数)

2020～2024年の入局者数

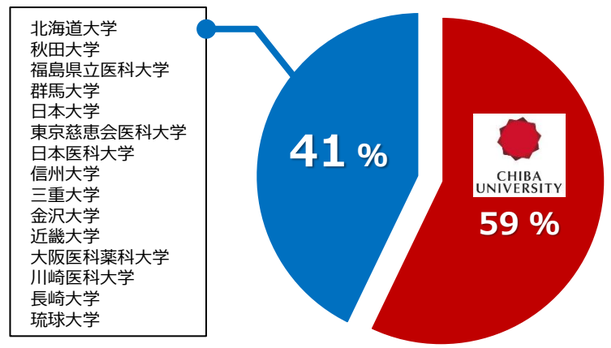
2024年　5名
2023年　9名　2022年　7名
2021年　12名　2020年　6名

毎年平均8～9名の入局者を迎え，それぞれ関連病院での研修や大学院での研究に励んでいます．

出身大学は千葉大学以外も多く，関連病院以外，千葉県以外の初期研修病院からの入局者もいます．

協力しながら切磋琢磨する同期をたくさん持つことができます．

出身大学割合 (2020～2024年)



千葉県

- 千葉ろうさい病院●
- 千葉医療センター●
- 千葉市立青葉病院●
- 千葉メディカルセンター
- 済生会習志野病院●
- 千葉県がんセンター
- 船橋市立医療センター●
- 君津中央病院●
- JCHO船橋中央病院●
- 東千葉メディカルセンター●
- 松戸市立総合医療センター●
- 成田赤十字病院●
- 国際医療福祉大学成田病院●

東京都

- JR東京総合病院●
- 東京労災病院●
- 日産玉川病院
- 都立多摩総合医療センター●
- JCHO東京新宿メディカルセンター●
- 国立病院機構東京病院●
- 聖路加国際病院
- がん研有明病院

神奈川県

- 聖隷横浜病院

静岡県

- 沼津市立病院
- 浜松医療センター●
- 聖隷浜松病院●

●がついている施設は主な専攻医研修派遣協力病院

千葉大学呼吸器内科の関連病院

特色のある豊富な関連病院

関連病院は千葉県だけでなく，東京都，神奈川県，静岡県にも存在し，いずれも地域の中核病院です．呼吸器内科としての基本的な経験は十分できるとともに，3次救急病院，結核病棟のある病院，間質性肺炎についてより深く学べる病院などそれぞれ特色があります．

当科の研修プログラムでは関連施設から研修がスタートするため，専攻医研修先については関連病院の中から皆さんの希望，経験，興味のある疾患に合わせて紹介できるよう配慮します．

指導医からのメッセージ

楽しく充実した研修を聖隷浜松病院で！

聖隷浜松病院 呼吸器内科 三輪 秀樹 (2008年卒)

当科は，浜松医科大学，千葉大学双方からの医局派遣で構成されています．それぞれの医局の特性を活かし，「肺に関わる病気は何でも診れるようにする」をモットーに日々診療しております．病院全体として，断らない医療を提供する意識が高いこともあり，症例数は非常に多く，バラエティに富んだ呼吸器疾患を経験することができます．

また，学会発表や論文作成の指導を行うスタッフが充実していることもあり，アカデミックな面での経験値も高まります．病棟スタッフもコミュニケーションの取りやすい方ばかりです．平日は忙しいですが，週末は当番制とし，オンオフをしっかりつけるようにもしております．

忙しくも楽しく仕事をしたい，アカデミックな経験値も高めたい，そのような諸君をお待ちしております！

呼吸器内科研修の 4 つの特徴

1 呼吸器疾患を中心とした幅広い内科疾患が経験可能

いずれの関連病院でも呼吸器疾患を中心としつつ内科疾患を広く経験できるような研修システムとしています．

2 主治医として外来や気管支鏡検査にも携われる

呼吸器内科では専攻医1年目から主治医として新患外来，気管支鏡検査に携わることができます．責任も伴い大変なことではありますが，患者さんを初診から継続して担当することや外来をマネジメントする能力が身につきます．

3 指導医からの丁寧な指導と先輩専攻医の存在

関連病院ごとに指導医が病棟・外来での研修をサポートできるような体制を構築しています．また，一施設に複数学年の専攻医がいるので時に相談し，時に切磋琢磨できる研修環境となっています．

4 仕事と家庭が両立できる職場環境づくり

結婚，妊娠・出産，子育てを含めたライフスタイルに配慮した研修・研究ができるようにしています．女性医師が多く在籍しており，様々なロールモデルが見ることができます．

一緒に呼吸器内科医を目指しましょう！

2023年度 千葉大学医学部附属病院 病棟医一同

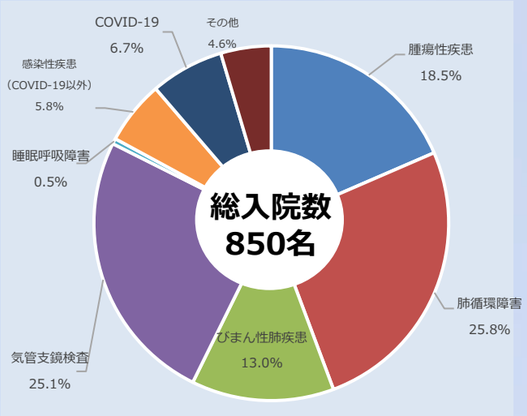
千葉大学病院 呼吸器内科

幅広い呼吸器疾患に対応

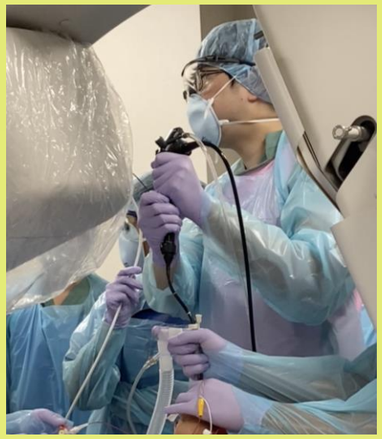
千葉大学病院呼吸器内科では入院患者数が年間800～900例に及びます．肺癌や間質性肺炎といった一般的な呼吸器疾患に加え，肺循環障害や睡眠呼吸障害など専門性のより高い疾患まで幅広く対応しています．また，他院からの転院依頼も積極的に受け入れています．

最近は新型コロナウィルス感染症(COVID-19)の影響も少なくなってきており，気管支鏡などの検査数もCOVID-19流行前に戻ってきました．

一般的な疾患から稀な疾患，急性期から慢性期と，大学病院ならではの多様性に富む多くの症例を経験することができます．



2023年 入院患者の疾患内訳



呼吸器内科医として更なる成長

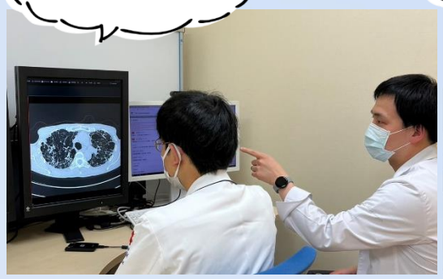
大学院2年　平間 隆太郎 (2017年卒)

私は2022年度に千葉大学に帰局し，現在はびまん性肺疾患や慢性閉塞性肺疾患に関する臨床研究を行いながら，気管支鏡業務や病棟管理業務を担当しています．

大学病院では，市中病院で経験することのできない肺移植や肺高血圧症の症例に関わることができ，当医局の研修プログラムの良さを味わうことができました．

千葉大学は全国に15施設しかない臨床研究中核病院です．臨床研究に関して資金面でも手厚いサポートがあり，私自身は特定臨床研究を立案するという貴重な経験をさせていただきました．

臨床においても，若手からやりがいのある仕事をどんどん任せてもらえます．充実した呼吸器内科生活をともに送りましょう！



千葉大学医学部附属病院

千葉大学病院は2015年7月に外来棟，2021年1月 ICUや手術室などが入る新中央診療棟，さらには同年4月に新しい医学部棟である総合研究棟がオープンしました．

患者さんにとっても広く快適な空間であり，日々多忙な医療者にとっても働きやすい職場環境となっています．

病院としては千葉県地域医療の最後の砦として，高度で安全・安心な医療提供を目指しており，呼吸器内科もその一員としての責務を果たすことを心がけています．

他の診療科もすべて揃っており，様々な難治性合併症をもつ症例にも対応できることが，研修においても非常に勉強になります．

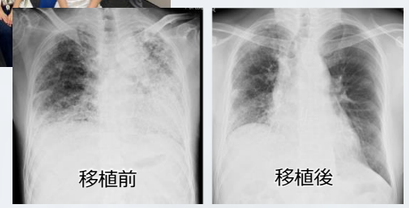
気管支鏡

気管支鏡検査は週2回に加え，緊急でも行っており，その件数は年間約300件程度になっています．超音波ガイド下の手技(EBUS-TBNA，EBUS-GS)により安全に正確に診断を行うことを心がけています．また，胸部CT用いて作成した仮想気管支鏡や迅速細胞診を併用して検査にあたっており，80%近い診断率が得られています．

当科では2022年6月よりクライオバイオプシーを導入しており，主にびまん性肺疾患の診断に対して，経験を重ねています．

肺移植

肺移植適応評価チーム



脳死左片肺移植例　移植前　移植後

当院は本邦の脳死肺移植認定11施設の１つであり，2014年から肺移植医療を提供し，着実に実績を重ねています．難治性呼吸器疾患患者さんにとって，希望の光ともいえる重要な医療であり，呼吸器外科をはじめ多職種と連携しています．

当院では，肺移植適応評価を呼吸器内科が窓口となって実施しており，移植後の体調管理についても呼吸器外科と連携して行っています．さらに貴重なレシピエント肺の検体を用いた研究など実施し，医学，医療の発展にも貢献できるよう努めています．

肺循環

右心カテーテル検査

心エコー検査

当教室の設立当初から肺循環領域に力を入れており，2016年には千葉大学肺高血圧症センター(センター長: 鈴木 拓児教授)を立ち上げ，肺高血圧症および肺血栓塞栓症の診断，治療を各科と連携して行っています．

心エコーや右心カテーテル検査も呼吸器内科で実施するとともに，慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するカテーテル治療を導入するなど，新しい手法も積極的に取り入れています．肺循環領域において常にリーダーシップをとっています．

千葉大学大学院

千葉大学大学院呼吸器内科学

大学院生 26名 (2024年度)

当教室では大学病院で1年間病棟診療を経験した後に大学院に入学することになります．基礎研究と臨床研究どちらも行っており，大学病院での診療の中で生まれた興味や臨床上の疑問を参考に希望を聞きながらどちらに進むか決めます．

大学院2年目以降は臨床研究が中心であれば診療にも携わりながらの研究も可能であるとともに，基礎研究に注力したい場合は研究に専念することも可能です．

当施設の関連施設への勤務で診療技術の維持とともに収入についても確保できるようにしています．出産，子育てなど家庭の事情についても可能な限り配慮します．

また，大学院生の間，海外(米国・欧州)の国際学会で発表することを応援しています．

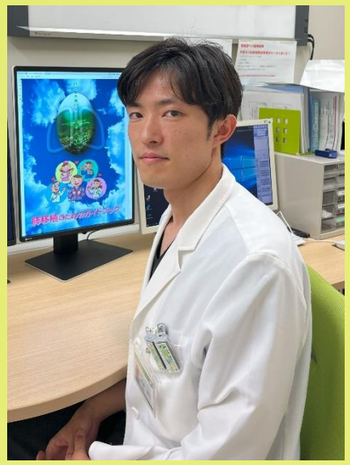
臨床と基礎両方の研究経験ができます

在学中も臨床に携わることもできます

指導医や先輩からの研究に関する丁寧な指導が受けられます

大学院でしか得られない貴重な経験

大学院2年　村井　優志 (2017年卒)



私は大学院生として，基礎と臨床の両面に携わっています．基礎研究では呼吸器感染症に関して，患者さんから提供いただいた検体を用いた解析を行い，臨床では肺移植患者さんの内科管理を行っています．どちらも大学病院でしかできない貴重な経験で，日々学びがある充実した大学院生活を送っています．

また，家庭で家事や育児に関わる時間もしっかりと取ることができ，親として今しかない子供との関わりを大切にすることができています(病棟医時代には育児休暇を取得させていただきました)．

臨床・基礎・家庭などバランスよい生活を送りたいと感じている方は，ぜひ千葉大学大学院呼吸器内科学への進学をご検討ください．

村井先生の大学院生活

	月　曜	火　曜	水　曜	木　曜	金　曜
午前	実験	実験	実験 検体処理	診療 (関連施設)	外来 (肺移植)
午後	データ 解析	データ 解析	診療 (関連施設)	研究ミーティング	肺移植ミーティング

子育ても頑張っています

基礎研究

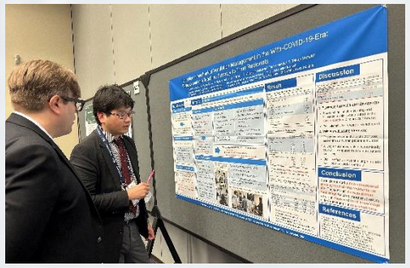
肺高血圧症・間質性肺疾患・COPD・ARDSといった多様な難治性呼吸器病態を対象として，分子生物学的手法を用いた基礎研究を行っています．

さらに学内の他の研究室や他大学の研究室，企業とも積極的に連携し，共同研究を実施しています．

研究テーマ

当院心臓血管外科，呼吸器外科，救急科・集中治療部との連携下に採取したヒト検体を用いた研究，遺伝子組み換え動物などを用いたモデル動物実験や培養細胞実験などによる研究など

臨床研究



大学病院での診療を通じて，幅広い領域の臨床研究を精力的に行っています．発表や論文の書き方なども十分な指導を受けることができます．実臨床で抱いた疑問を解決するような臨床研究を行えるようサポートしています．

研究テーマ

肺循環障害・間質性肺疾患・COPDに対する診断・治療に関する研究，気管支鏡検査に関する研究，胸部CT画像診断に関する研究，胸部悪性腫瘍(肺癌・胸膜中皮腫)の診断・治療(遺伝子治療)に関する研究 など

教育研究

当教室では医学生，研修医に対する呼吸器診療の教育についても積極的に行っており，理論に基づいた効果的かつ効率的な教育手法についても学ぶことができます．

実際に行った教育について，その効果を検証することや学習者についての調査，解析を行い，研究として報告しています．

研究テーマ

呼吸器内科臨床実習および初期研修における各種教育方略の効果検証，胸部聴診教育方略の開発，EBM(Evidence Based Medicine)教育方略の開発，人工呼吸管理教育方略の開発，呼吸器内科臨床研修医のニーズ評価 など

キャリアプラン

卒業後については大学で研究・臨床・教育で活躍する，海外留学をする，または関連病院や関連外病院で呼吸器内科医として活躍する，開業しプライマリケアに従事するなど様々な選択肢があります．キャリアプランに合わせてそれぞれが最大限に活躍できるように応援していきます．

呼吸器内科医はスペシャリストであるとともにジェネラリストであるため，どのような進路に行っても活躍が可能です．また，本人の興味を生かして呼吸器専門医としてだけでなく，腫瘍専門医や感染症専門医など自分の得意とする分野で大学や市中病院でその能力を発揮している先生方も多くいます．

卒後 **7** 年 ～

大学院

卒後 **11** 年 ～

研 究
- 大学医学部
- 留　学

臨 床
- 当科の関連病院

その他、様々な方面で呼吸器内科医として活躍しています

留 学

当科では大学院卒業後に主に米国の大学を中心とした研究施設に留学することができます．近年ではNIH(ワシントン)，ネブラスカ州立大学医療センター，コロラド大学，ウィスコンシン大学，カリフォルニア大学ロサンゼルス校，イリノイ大学，パリ大学国立肺高血圧センター，ヴァンダービルド大学，アムステルダム自由大学などに研究留学をしています．現在もカナダ トロント大学，ラバル大学に各1名が留学しています．留学に興味がある方は留学経験のある医局員から様々なアドバイスを受けることができるので気軽に相談して下さい．

カナダ ケベックから

山本 慶子 (2009年卒)

私はカナダ ケベック州にあるラバル大学 肺高血圧症センターで肺高血圧症の研究を行っています．

本研究室は膨大なヒトサンプルを使った研究ができる世界有数の施設です．そして，動物とヒトのデータを同時に組み合わせた研究をするという大変貴重な経験をさせていただいております．研究を通じ，臨床への理解がさらに深まることも実感しています．

また，カナダといえばフランス語圏なので，フランス語も習得できます．新たに出会った素晴らしい仲間と新しいことを学ぶことができる充実した日々です．

入局を希望される方へ

入局までの流れ

入局から専攻医研修開始に向けての流れは以下のようになります．

入局を希望される方は下記に連絡をお願いします．当科の専攻医研修は関連病院での研修から始まるため，皆さんと相談をしながら研修先を決めていきます．入局の意志の連絡には期限はありませんが，早めに連絡いただく方が色々とご希望を聞くことができます。内科専攻医の登録のためには**9月中まで**が目安になります．

～ **9** 月頃 **入局の意志の連絡**

以下のメールアドレスに連絡して下さい．

医局長　重田 文子
konai@office.chiba-u.jp

教授と面談

研修病院希望のヒアリング

希望に沿えるような研修病院を可能な範囲で提示します．

内科専攻医の登録

～ **12** 月 **専門研修先の決定**

研修先が決まり次第，医局長よりお知らせします．

翌年 **4** 月～ **専門研修開始**

研修プログラム責任者・連絡先

責任者　　鈴木 拓児（教授）
医局長　　重田 文子（講師）

konai@office.chiba-u.jp
TEL：043-222-7171　(内線 5471，5472，5473)

質問や見学なども常時受け付けておりますので，気軽にご連絡ください．

Access Map

- **JR千葉駅から**
  東口正面7番のバス乗り場から「南矢作」または「大学病院」行のバスに乗車，「大学病院」で下車．(所要時間約10分)
- **JR蘇我駅から**
  東口駅前2番のバス乗り場から「大学病院」行のバスに乗車，終点「大学病院」で下車．(所要時間約15分)
- **京成電鉄 千葉中央駅から**
  タクシーをご利用下さい．(所要時間約10分)
- **車で来られる方へ**
  本院駐車場は，駐車スペースに限りがありますのでなるべく電車やバスなどの公共の交通機関をご利用下さい．

千葉大学 呼吸器内科

http://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/respir/